



ひとの「へそ」の中は、どうなっているの

腹膜という、内臓を包んでいる膜につながっているだけ

「へそ」は、赤ちゃんのときの、へそのおのとれたあとです。

へそのおは、赤ちゃんが、お母さんのおなかの中にいたときには、おなかの中のたいばんにつながっていました。へそのおを通して、赤ちゃんの必要な栄養や酸素は、お母さんから送られ、いらなくなったものは、へそのおを通して

お母さんへ送られ、お母さんが捨ててくれていたのです。

赤ちゃんが生まれた後は、へそのおは必要がなくなり、自然に切りはなされます。そして、動脈や静脈など、へそのおの中を通っていた血管の先などは縮んでしまい、その上をうすい皮ふがおおってしまいます。ですから、「へそ」の中は、うすい皮ふがあるだけで、そのため、「へそ」は、おなかの中では、腹膜という、内臓を包んでいる膜につながっているだけになります。

へそのごまをとると、おなか痛くなるのは

「へそ」が、おなかの中でつながっている腹膜には、たくさんの痛さを感じる神経があります。そのため、へそのごまをとろうとして、へその中のびん感な部分にさわったりすると、おなかの中にある腹膜をしげきしてしまうために、おなか痛くなるのです。

(監修・保志 宏)

